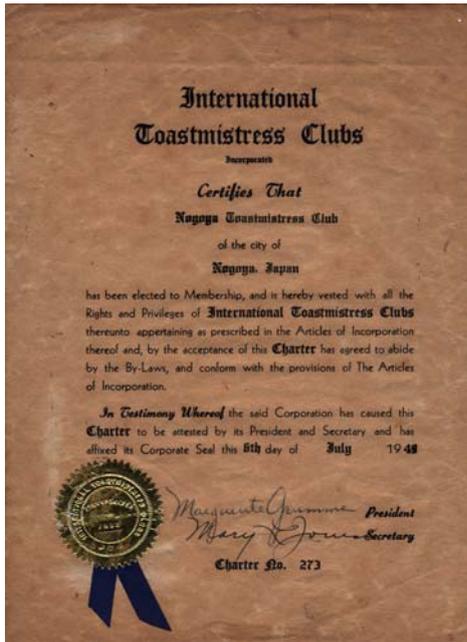


IIC Nagoya Club

50th Anniversary



2000.3.13



認証状 (旧)



認証状 (新)

目 次

祝 辞	愛知県知事 -----	2
	名古屋市長 -----	2
	ITC 国際会長 -----	3
	日本リージョン会長 -----	4
	カウンスル No.1 会長 -----	4
歓迎のことば	名古屋クラブ会長 -----	5
名古屋クラブ誕生まで -----		6
名古屋クラブ 50 年の歴史年表 -----		8
思い出すことなど -----		12
50 年によせて -----		14



祝 辞

愛知県知事

神田真秋

ITC 名古屋クラブが 50 周年を迎えられましたことを心からお祝い申し上げます。
我が国では、昭和 50 年の国際婦人年を契機として男女平等社会実現への意識が一層高まっております。さらに昨年は男女共同参画社会基本法が制定されるなど、国際社会の一員にふさわしい取り組みが着実に進められているところであります。
また、本県におきましても現在、特に、学習活動への参画促進、国際交流・協力の推進などを重点項目のひとつとして、新しい男女参画プランの策定を進めているところであります。
こうした中、ITC 名古屋クラブの皆様が、女性の方々の国際的な教育・訓練機関として半世紀の長きにわたり、着実な活躍を続けられ、豊かな国際感覚を持つ人材の育成などを通じて、広く社会全体の発展に寄与しておられますことは誠に心強く、ここに深く敬意を表する次第でございます。
今後とも、会員の皆様方の一層のご活躍により、ITC 名古屋クラブがますます発展されますことを祈念いたします。



祝 辞

名古屋市長

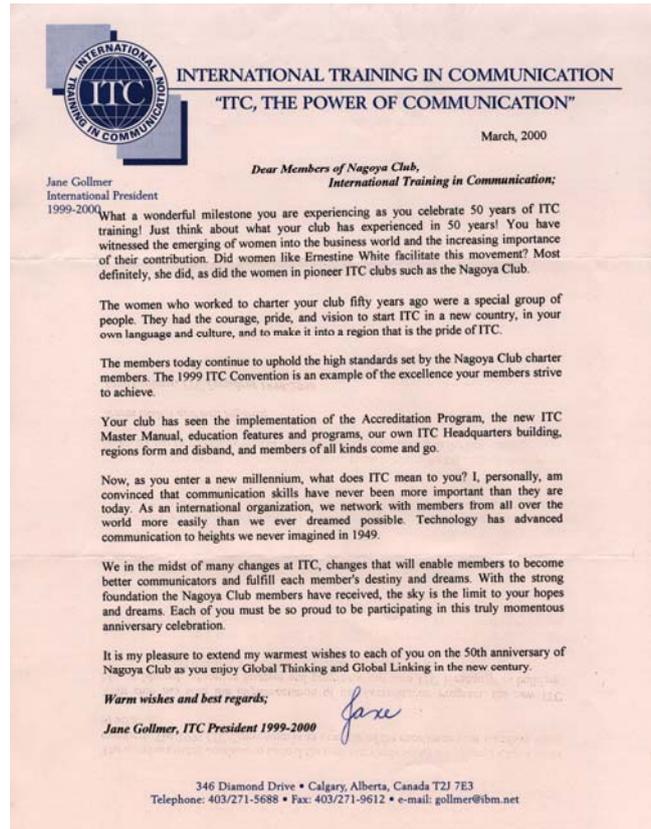
松原武久

ITC 名古屋クラブが設立 50 周年を迎えられましたことを、心よりお喜び申し上げます。
日本で最初の ITC 認証クラブである貴クラブにおかれましては、長年にわたり、コミュニケーションやリーダーシップの訓練及び実践を通して社会に貢献されており、深く敬意を表する次第でございます。
現在、本市では 21 世紀初頭のまちづくりの指針となる「名古屋新世紀計画 2010」の策定作業を進めているところですが、国際化や高度情報化の進展という大きな潮流の中、様々な人たちと円滑にコミュニケーションを図り、相互交流を進めていくことが一層重要になってまいります。
貴クラブの日頃の真摯な活動が、よりよい名古屋のまちづくりに貢献されますことを確信し、ますますのご発展を祈念してお祝いの言葉といたします。

祝 辞



ITC 会長 1999-2000 年
ジェン・ゴルマー



ITC 名古屋クラブ会員の皆様

ITC50周年を祝うことはなんと素晴らしい画期的な経験でしょう。

50年前貴クラブをチャーターした婦人達は特別なグループの人達でした。彼女達は新しい国の言葉と文化が違うところで勇気と誇りとビジョンを持ってクラブを設立してそれをITCが誇りとするリージョンに育てあげました。現在の名古屋クラブの会員はチャーター会員達が築いた高い基準を今もなお引き継いでいます。

そこで、新千年紀を迎えて皆さんにとってITCとは何でしょう？私個人としては今日程コミュニケーション技術が重要であることはないと確信しています。国際団体として、夢にも見たことがない程、容易に世界中の会員をネットワークでつないでいます。名古屋クラブの会員はしっかりした基礎を受け継いでいます。クラブの希望と夢は果てしないものです。そして会員一人ひとりがこの真に記念すべき式典に参加することをどんなに誇りに思われることでしょう。

名古屋クラブの50周年に際して会員の皆さんに心からのお喜びを申し上げますと共に新しい世紀に向かって「グローバルな思考、グローバルな関係」を楽しんで頂くことを願っております。

心よりお祝い申し上げます。(要約)



祝 辞

第 18 期日本リージョン会長

今井 千代子

名古屋クラブ 50 周年のお祝いを心から申し上げます。
50 年前、日本がまだ戦後の混乱の中にある時、女性と指導性と社会への貢献と含めるコミュニケーション技術向上、という組み合わせで新しい組織、名古屋クラブが誕生したことを今考えますと、感動の気持ちが新しく湧きあがります。
現在日本には 81 のクラブがあり、日本リージョンは世界最大のリージョンに発展いたしました。私たちが日本の ITC の歩みを歴史としてひもとく時、常に指導的立場にある名古屋クラブの存在を見ます。私たちが ITC を語る時、この発展の基を築いて下さいました名古屋クラブの存在の大きさを忘れることはありません。名古屋クラブの存在を語る時、私たちはその存在を誇ります。社会が進むその流れの中で、名古屋クラブの先導者としての喜び、楽しみと、きっとお持ちになったであろうご苦勞も痛みも、後進の会員と共に分かち合い、歩む、謙虚な姿勢を私たちは見て、知り、学びました。
今後も ITC の成長のために、私たちと歩んで頂くことをお願いいたします。
名古屋クラブの益々のご発展をお祈りいたします。



祝 辞

第 27 期カウンスル No.1 会長

飯沼 佐智子

名古屋クラブ 50 周年おめでとうございます。
この素晴らしい式典に、ITC 会員として又カウンスル No.1 会長として、出席できます事は、この上もなく喜ばしく光栄なことと存じております。
名古屋クラブの半世紀にわたる実績は、日本における ITC の歴史そのものです。
1977 年 4 月頃から、トーストミストレス（懐かしい言葉）の名古屋地区で 3 つめのクラブ増設をする為に、エクステンション委員会の説明会が開かれ、会員の皆様の紹介で集まった私達は、名古屋クラブの諸先輩から ITC の会員としての心得などを、手取り足取り、懇切丁寧に教育して頂きました。
初めて、名古屋クラブの例会に出席（見学）した時、自己紹介で自分の名前を言うだけなのに、心臓はドキドキ、足はガタガタと震えて、ものすごく緊張した事を覚えています。
その後、カウンスル No.1 も 12 クラブとなり、各クラブは、ITC 会員である事に誇りを持って、楽しく充実した活動をしております。
21 世紀に向かって、名古屋クラブの益々のご発展と、ITC 会員の皆様のご健康とご多幸をお祈り申し上げます。

名古屋クラブ 50 周年によせて

名古屋クラブ会長

豊島知子

名古屋クラブが 1949 年、日本ではじめて認証され、トーストミストレスクラブとしてその歩みを始めてから 50 年の歳月がたちました。

第二次世界大戦後の荒廃した名古屋に遠くアメリカから運ばれてきた一粒の種が根付き、成長し今日となったのです。当時の会員がとまどいながら旺盛なチャレンジ精神と柔軟な適応性と勤勉さで学び、吸収し、確固たる礎を築いたからこそ現在の ITC の繁栄があると存じます。

私達会員は、ITC 宣誓に記されている目標にむかって着実に進み、年輪を重ねてきました。時代は移り、世界が動き、ライフスタイルも変わってきましたが、ITC は常に私達の生活の一部として共に生きてきたのです。

2000 年という節目の年に 50 周年を迎えたことは大変意義深く、新たな飛躍と発展を期し、はげしい社会の流れの中にあって常に前向きに切磋琢磨していかねばならないと思います。

そして名古屋クラブは先駆者としていつまでも輝いていたいものだと願います。



名古屋クラブ会員（前列左から 4 人目、豊島会長）1999.9.13 撮影

名古屋クラブ誕生まで

1949年（昭和24年）7月6日、日本のトーストミストレスクラブが認証された。デュモント夫人、パッセール夫人とマッキー夫人によって創設された。初代会長はエリックソン夫人であった。会員はすべて米国空軍将校の夫人であったが、将来はすべて日本人の会員にすることが目的であった。

当時、名古屋市には米軍第5空軍司令部が駐屯していて、進駐軍の軍政部の商務官であったクラーク ジョージ夫人により、日本婦人にも国際トーストミストレスクラブズに参加するように呼びかけがあった。戦後初めての総選挙で婦人参政権が実現し（1946/4/10）39人もの女性代議士が誕生するという時代で、女性にとっては戦後の曙であった。日本の婦人も今後は社会への進出や地域活動に参加の機会も多くなることが予想されるし、日米の親交を図りながら民主的なリーダーシップを学んでほしいというのが主旨であった。

しかし日本は未だ戦後の整理ができていず、このような国際的組織への加入には政府の許可が必要とされていた。種々の手続きを経て1951年に文部省の許可がおりた。これは平和条約発行の前年のことであった。

その年の9月に役員就任式典が丸栄ホテルで開催された。役員はすべて日本人が就任した。この時の会長は山本三重子であった。会員はアメリカ人6人、日本人22人で構成された。日本人の会員は行政、財界、教育関係者の夫人たち、アメリカ人は空軍司令部の高官の夫人たちであった。日本の歴史上、このような国際的組織への加入を許可されたのは初めてのことであり、50人もの報道関係者がこの式典を取材するために集まった。



1951年ジョージ夫妻と共に

その後、会合は毎月2回、通訳を介してバイリンガルで開かれた。「トーストミストレスハンドブック」が増田信夫氏により翻訳された。内容はすべてが日本婦人のそれまでの実生活とかけ離れた目新しいことばかりなので、アメリカ夫人たちによって一つひとつ指導され勉強した。この会合での会話、スピーチ、分析聴取法、円卓討議やリーダーシップの訓練、またアメリカ人会員たちの人前での表情豊かな自然なスピーチなど、コミュニケーションの技術をお互いに熱心に訓練し評価にあたる人は適切な評価をし、またそれを素直に受け入れ向上へ努力する様子は、目を見張るばかりであった。当時の日本婦人にとって、このようなユニークな会合に出て勉強することはたいへん刺激があり、毎회가画期的な挑戦で、緊張と興奮の連続であった。そして、アメリカ人の会員の指導により会の運営法や議事法等も一生懸命に勉強した。

会合はアメリカ人会員の自宅で行ったり、お正月やお節句には日本人会員宅で行い、文化の交流も図った。また、役員交替式には会員の夫たちも招待し、トピックスなどに参加してもらい、トーストミストレスクラブへの理解を深めた。



トーストミストレスクラブ時代のクリスマス例会

以後16年間、関西に阪神クラブが設立されるまで、名古屋クラブは日本唯一のクラブとして会員はお互いに助け合い、よりよいコミュニケーションを学びITCの方針に忠実に従い自己啓発に励んだ。

振り返ってみれば、この一粒の種は会員たちの緊密な共同作業と友情の中での学習によってはぐくまれ、現在の日本リージョンの飛躍的發展に結実したのである。

名古屋クラブ50年の歴史年表

年代	特記事項	時の会長名
1949	7月5日、名古屋トーストミストレスクラブが認証された。 (詳細は『名古屋クラブのはじめ』に記載)	A. L. Erickson
1951	文部省から日本人が正式に会員になることが許可され、月2回、米国人と共に例会をもった。役員任期は4カ月であった。佐伯まさ江、水野しのぶ他、政財界夫人が入会した。会員M. 大矢が通訳を勤めた。 議事録は英文で作成、発表された。	山本三重子
1962	例会の通訳はM. 大矢と新木昌子が勤めた。	
1965	役員任期が6カ月に改められた。(2月・7月に選挙) 通訳は専門の山下京治氏に依頼した。	盛田 純子
1966	阪神クラブの誕生を祝って「インスピレーションブック」を贈った。	田中 千枝
1968	5月17日、名古屋、阪神クラブが初めて京郡で合同例会を持ち、お互いにより刺激となり、親睦を深め、ともに発展するきっかけとなった。	菅原 愛子
1970	初めて任期のテーマ「世界は一つ」を掲げた。 会期の会計予算を立て、クラブで承認を受けた。(予算制度設定) 4月29日、阪神クラブと名古屋クラブの会員として指導して下さった。 Mrs. Noonanがアメリカへ帰国のため、退会した。 9月から外国人会員が皆無となり、日本語のみの例会となった。 名古屋クラブのHistoryBookを作ることが決定した。	高柳 恭子
1971	阪神クラブと合同例会を企画、そのための資金を作るバザーをしたが、阪神クラブが辞退して実現しなかった。 度々例会に出席し、プログラムにも参加された韓国領事夫人のMrs. C. Y. Moonが帰国することになり、4月19日、TeaPartyのお別れ会をした。 9月20日、名鉄犬山ホテルで名古屋クラブ20周年記念例会を行った。 テーマは「年輪」。例会後阪神クラブ会員と共に明治村を見学した。 10月、水野、増田会員からの寄付金でストップウォッチと議事法関係の本(①Robert's Rules of Order. ②Gleason's Parliamentary Digest, ③How, What & When in Parliamentary Law) 3冊を備品として購入した。	滝 由喜 新木 昌子
1972	8月24日、Ai Yokota ITC広報委員長が来日、名古屋クラブ会員有志と会食し、将来の発展のためカウンスルを組織するように、奨励指導をした。 カウンスル設立準備委員会が名古屋、阪神、神戸3クラブの代表者によって発足した。	須知 繁子 吉田千鶴子
1973	8月1日、日本カウンスルNo. 1が設立され、初代カウンスル会長に名古屋クラブの新木昌子が就任した。 クラブ役員任期が1年となり、例会が月1回になった。	豊田 寿子 高田 朝子

1974	<p>カウンスル例会にクラブ選出役員「クラブ代表」2名が出席した。 9月7日、滝由喜会員死去。10月13日の例会で追悼会が行われた。 名古屋クラブ25周年記念事業として名古屋地区に新クラブ増設が計画され、委員長に新木昌子が任命された。 9月27日、25周年記念例会を東山会館で開催した。元会員森 君代からの寄付金でクラブバナーを備えた。</p>	<p>貴田 正子 豊島 知子</p>
1976	<p>2月9日、Mary Woodcock ITC副会長Div. VIが来日、名古屋クラブ例会に出席した。 初めてのクラブ増設活動で「葵クラブ」が誕生した。 カウンスル会長盛田純子、第二副会長吉田千鶴子が増設委員長として更に新クラブ設立に着手した。</p>	<p>石川 浩子</p>
1977	<p>1月10日、Norma W. Ewin ITC副会長Div. VIが来日、組織の説明、ニュースレター発行を指導し、4月、第1号の発行に至った。 名古屋、葵クラブの協力で、本部より\$1,600の補助を受けてITC教育マニュアルの翻訳が完成、12月に発行された。これがきっかけとなり増設活動が盛んになり、4クラブ（東京、錦、イースト神戸、九州）が誕生した。 カウンスル会計に増田はるゑが選出された。例会場がクラブ東海から通信ビル2F、そしてトヨタビル5Fと変更した。</p>	<p>長谷川三四子</p>
1978	<p>Ai Yokota ITC会長が再度来日、リージョン設立を勧めた。 名古屋クラブ例会のプログラムでカウンスル分割を討論した。 カウンスル会長に八代ふゆ子が選出され、クラブ代表はカウンスル派遣員となり数も2名から1名へ修正された。</p>	<p>竹内 宏子</p>
1979	<p>Ai Yokota ITC会長は新木昌子へITC功労賞を送った。（教育マニュアルの発行） カウンスル会長に高柳恭子が選出された。9月、リージョン研究委員会ができ、白木、盛田、伊藤、が委員となった。</p>	<p>東浦ゆり子</p>
1980	<p>2月、カウンスル会計陸田久子さん（葵）が死去。後任に白木保子が選出された。 3月、増田はるゑが、国際ソロプチミスト名古屋から「婦人が婦人を助ける賞」を受賞した。 会則改正で第1副会長がプログラム教育委員長を、第2副会長が会員委員長を務める事となった。 11月、ITC本部からトーストミストレスクラブの名称を変更したいので各クラブで検討するように通達があった。</p>	<p>鵜飼恵津子</p>
1981	<p>第8代カウンスル会長Miss Paineの裁量により日本カウンスルを3つに分割した。No.1 会長に 吉田千鶴子(名古屋、葵、東京、錦)、No.2 会長に三宮晶子(阪神、神戸、イースト神戸、九州、鳥取)、No.3 会長に江藤万里子(関西、大阪、芦屋、京都、平安、郁)が就任した。</p>	

	<p>クラブ、カウンスルのスピーチコンテストで優勝した東浦ゆり子(名古屋)は、ITCテープ・スピーチコンテスト(英語)で優勝した。 資格認証課程が発足した。</p> <p>11月16日、名古屋クラブ30周年記念式典をホテルナゴヤキャッスルで行った。テーマは「竹」。</p>	佐藤 明子
1982	<p>6月4、5日、日本リージョン設立大会が京都パークホテルとタワーホテルで開催され、初代会長に新木昌子、書記に盛田純子、会計に高柳恭子が選出された。</p>	
1983	<p>5月30、31日、第1回リージョン大会が名古屋観光ホテルで新木昌子会長によって開かれた。 大会コーディネーターは吉田千鶴子が勤めた。</p>	隈部 篤子
1984	<p>1984～1985年度、ITC副会長Div. VIに新木昌子が選出され就任した。 日本人の国際役員は初めてであった。</p>	伊藤 匡子
1985	<p>リージョン第2副会長は盛田純子が選出された。 第3回リージョン大会で第4代会長に盛田純子、第1副会長に八代ふゆ子、会計に鈴木宏子が就任した。 8月1日よりInternational Toastmistress ClubはInternational Training in Communication と改称された。</p>	
	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">   </div>	
1986	<p>10月6日、白木保子会員死去。11月、追悼会が行われた。 第5代リージョン会長に八代ふゆ子、次期会長に高柳恭子、第2副会長に、鈴木宏子が就任した。 大会コーディネーターは須知繁子であった。</p>	
1987	<p>第6代リージョン会長に高柳恭子、次期会長に鈴木宏子、第1副会長に新木昌子が就任した 増田はるゑ86歳を機に特別会員になった。 1月、例会でITC50周年に敬意を表し、ケーキにローソクをともしてお祝いした。</p>	高田 朝子 田中あき子
1988	<p>6月24日、ITC50周年記念行事に賛同して名古屋 栄のセントラルパークのもちの木広場で雨の中、1000個の風船を打ちげた。 第7代リージョン会長に鈴木宏子、書記に鵜飼恵津子が就任した。 カウンスルNO.1の分割が例会で取り上げられた。</p>	盛田 純子



初代リージョン会長
新木昌子



第4代リージョン会長
盛田純子



第5代リージョン会長
八代ふゆ子



第6代リージョン会長
高柳恭子



第7代リージョン会長
鈴木宏子

1989	日本リージョン事務局を開設、事務局長に新木昌子が就任した。 リージョン大会コーディネーターは豊島知子が勤めた。	村上 令子
1990	リージョン第2副会長に須知繁子が就任した。 高柳恭子はそのITC活動に対して愛知県知事より婦人地域活動者表彰を受け、12月例会でクラブから花の鉢を贈って祝った。 2月3日、永年ITCに貢献した八代ふゆ子会員が死去、3月4日名鉄グランドホテルで遺族主催の追悼会が行われ、元会員や他クラブ会員多数が出席した。 8月1日、カウンスルNo. 1を2カウンスルに分割、東京地区をNo. 8とした。 No. 1会長は豊島知子、No. 8会長は堀江祐子が就任した。	西村みつ子 佐藤 明子
1991	5月13日、長島温泉「花水木」での持ち出し例会で増田特別会員の卒寿を祝った。	
1992	4月6日、飛騨高山クラブと合同例会を高山のひだホテルプラザで開催。 新しいマスターマニュアルが完成した 8月から盛田純子がリージョン事務局長に就任した。	
1993	第21期カウンスル会長に高田朝子が就任した。	村瀬美與子
1994	4月、例会をザ・ホテルヨコハマ（横浜）でNo. 8の横浜クラブ有志と開催。 6月、名古屋クラブ45周年記念例会開催が決定した。委員に吉田、竹内、村瀬が任命された。第22期カウンスル会長に村上令子が就任した。 8月、鈴木宏子がリージョン事務局長に就任した。	
1995	4月、阪神淡路大震災に際し、阪神クラブへ義援金4万円贈った。 6月、会員高柳恭子が藍綬褒章を受章、クラブから花束を贈った。 7月、名古屋クラブ45周年記念例会を名古屋観光ホテルで開催した。	伊藤 匡子
1996	4月、特別会員増田はるゑ95歳の誕生日を八事のザ・ステージ「石菫の舎」で祝った。 8月、第25期カウンスル会長に竹内宏子が就任した。	森 露子
1997	3月24日、名古屋、東山、浜松クラブ合同例会をホテルナゴヤキャッスルで開催した。8月、鶴飼恵津子がリージョン事務局長に就任した。 11月、例会にゲストスピーカー栗山英紀氏（東海銀行調査副部長）を招き「日本版ビッグバンについて」の話を聞いた。 9月18日、特別会員増田はるゑ死去。11月30日追悼会を盛田邸で行った。	荒木富美子 石川 浩子
1999	1月例会は能楽師の宇高通成氏の講演を聞き、ご自作の能面を拝見した。 6月3日、第17回リージョン大会は1日大会で、京都国際会議場で開催された。リージョン第2副会長に村上令子が就任した。 7月17日～22日、日本で初めて第58回ITC世界大会が神戸ポートピアホテルで開かれた。大会のコーディネーターは新木昌子で日本の旗手は神谷啓子会長が勤めた。	神谷 啓子

思い出のことなど

元会員の皆様から寄せられた思い出です。

豊田 寿子

このたび ITC 名古屋クラブ 50 周年をお迎えになられましたこと、心よりお祝い申し上げます。

私が例会に出させて頂いていたのはもう 20 年も前になるでしょうか。会員の皆様方との暖かい交流を通して多くを学ばせて頂きました。名古屋クラブでの貴重な体験はその後、私が携わったボランティア活動のおりの私の心の支えでございました。どうぞ 50 年の歴史を大切に下さって下さいませ。そして今後のクラブの益々のご発展をお祈り申し上げます。

長谷川 三四子

私は幼い頃からひっこみ思案で人前が出るのが大の苦手。そして劣等感の塊の様な子供で、それを引きずったまま成人いたしました。その私が中年になってから豊田寿子様のお誘いを受け名古屋クラブに入れて頂くことになったのです。何も分からないまま、ただクラブを構成する皆様の魅力にひかれ恐る恐るではありましたが。そしてその内メンバーとして仕方なく(?)会計から始まるお役を次々といたしました。その間にすてきな沢山のお友達に恵まれ、クラブの皆様本当に暖かく快く助けていただきました。おかげで一通り何とかやり終えたあたりから、私に根強く住みついてきた劣等感が少しずつ消えていったのです。私にとって ITC は人生における大切な学校でありました。心から感謝しております。

隈部 篤子

「名古屋トーストミストレスクラブ (当時)」に、入れて頂いたのが 1974 年、それから夫の東京への転勤までの 10 年間、お世話になりました。それ以後、もう 15 年たってしまったことに、驚いております。今は ITC と名称も変わり、すっかり無縁になってしまった私には、その内容は想像もつきませんが、私にとっては、今も「トースト」で、厳しい中にも家庭的で暖かな雰囲気だったことや、亡くなられた、白木様、八代様、貴田様に、いろいろ教えて頂いたことなどが、鮮明に思い出されます。例会の前には、準備に胃の痛くなるような思いをしたこと、いつも頭の片隅に気にかかることが、ひっかかっているような感じがしたことなどを思うと、当時、ご一緒だったクラブの方々が、今もなお、ITC で活動なさっていることに敬服致します。益々のご発展を、お祈りしております。

ITC 名古屋クラブの皆様へ

田中あさ子

会員の皆様、クラブ認証 50 周年記念祝賀会を迎えられましたことを心よりお慶び申し上げます。1999 年 7 月、世界大会も日本で開催なさいましたそうで、もう皆様には学ぶことはすべて学び尽くしたのではと案じておりましたのに益々のご飛躍の様子大変うれしく又、誇らしく感じております。

未熟な私を温かく迎えてくださり、楽しい中にもきびしさをもって、沢山の勉強と自己向上の機会を与えてくださいました。又多くの友人知人を賜り、人生の貴重な体験をさせていただきました。ITC の 50 周年の時にはクラブ会長として 50 本のキャンドルを立てた大きなケーキで一緒にお祝いをいたしましたね。又亡夫の告別式には雪の降る中を大勢の方がおまいりにいらしてくださり、終生、ご温情は忘れません。あまりに思い出が多くて、語りつくせません。クラブと皆様のご活躍を遠くよりお祈り申し上げます。

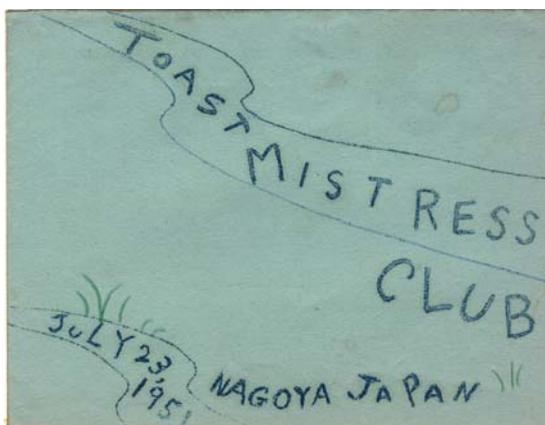
高田朝子

最初に入会させていただいたのが 1967 年、昨年まで 30 年余の名古屋クラブの歩みを見てきたこととなります。ふり返ってみますと、大きな流れは、タイプライターからワープロへ、英語から日本語へ、社交から知的満足へ、均質から多様へと変わってきたように思います。

入会の頃の ITC 資料に、イヤリングは揺れる物をつけてはいけないとありました。服装に限らず、TPO のはじめを心得ることが大切でした。今では社会の変化にも従って、かなり自由となり、会員の関心は知的で論理的なものへと移ってきたようです。

団体が内部から変わるのは難しく、よく 50 年の歳月に耐えられたと、名古屋クラブの優秀さに感心いたします。

元会員としましては、これからも、常にその時代にとって、優れた存在でありますよう、願っております。



初期の表紙とプログラム

50周年によせて

新木昌子 (41年)

ITC と共に歩んで 40 余年。私にとりまして ITC は常にチャレンジであり、評価で自己啓発に励む、温かい友情に囲まれた素晴らしいクラブです。名古屋クラブは日本の ITC の成長と発展に大いに貢献してきました。名古屋クラブの 50 周年記念をかねて 1999 年 7 月神戸で世界大会が盛大に開催されたことは誠に感無量です。今後の発展を祈念致します。

盛田純子 (40年)

ITC に入って 40 年、その間に得たもの ――― 考え方の違いを認め相手の立場を理解しようとする姿勢、どんな話し合いも感情的にならない戒め、何事にも関心を持ち問題点を考える習慣、誰にもある長所を生かし助け合って事を成し遂げる喜び、能率よく仕事を処理する方法などなど ――― 人間として少しは大きくなれたとしたら嬉しく存じます。

鈴木宏子 (37年)

30 有余年、ITC と共にあり、時代に遅れないように私をそだててくれたのは、ITC とその友達です。しかし古稀を迎えるにあたり、そろそろ人生の総決算のまとめをする時が来たように思います。名古屋クラブ 50 周年の会員であったことは幸運です。少し時間の余裕を作って来し方を振り返り、行く末の準備にとりかかりたいというのが今の心境です。

須知繁子 (37年)

ITC は私の性^{しょう}にあっているのでしょうか。知識欲を刺激され、共通の価値観を持つ人たちとのふれあいを楽しんで 35 年余りも過ごしてきたのですから。お陰で私も少しは成長したように思います。しかし、会員歴の長さが人としての成熟度に比例するとは限らないように、人間の作る組織にもそのようなことが言えましょう。名古屋クラブの創立 50 周年を心から慶ぶと共に自戒したいと思います。

高柳恭子 (36年)

最近、パソコン等の普及の影響もあり、生の人間関係を結ぶことが稀薄になってきています。50 周年を迎え今一度会の目的「相互理解促進」の意味を再確認し、更にその技術を深める機会を作りたいと願っております。この技術習得は主婦、職業人、老若男女を問わず人として欠くことのできない要件技術と思うからです。今日迄有能で誠実な会員の方々との出会い又エンパワーされてきたことに感謝しつつ、今後よろしく申し上げます。

吉田千鶴子(35年)

1983年5月、日本リージョン第1回大会が名古屋観光ホテルで開催されたとき日本中の会員を迎え無我夢中でコーディネーターの任務を果たした。初めての経験ながらそれぞれの担当会員の奉仕と協力で素晴らしい大会になったことに感謝感激し涙したことは私の35年間のITC生活の大切な思い出である。あのときは若かったナー。

鵜飼恵津子(34年)

教育は普通の人を育てることだと言います。又普通の人とは人と係わりつつ生きたいと願う存在です。ITCは、あまたの人との交わりを求める普通の人々を育ててくれました。しかし、育てられた私たちは、一体何を「世界中の相互理解促進」に寄与しているのでしょうか？しかも会員数の減少で衰退しつつある日本以外のITCの実態を思う時、私にとって名古屋クラブ50周年のめでたさも中ぐらひであります。

佐藤明子(34年)

30周年では38才で会長をさせて頂きました。会員が若く楽しく、人のつながりの大切さを感じました。ITC成長期の素晴らしいリーダークラブでした。東浦さんの世界大会テープコンテスト1位の報はお祝いに花をそえました。初期の歴史の宝を大切にITCの大きな木に、小さくても中味一杯の実をつけられるとよいと思います。

石川浩子(28年)

50周年を迎え、その光栄を喜びつつ、日本最古のクラブとして果たす役割の重大さを痛感します。時代変化の中で、自己を見失う事なく、ITC本来の目標に向かって正確な指導力をいかに発揮するかが問われている時ではないでしょうか？この機会に、自己の生き方のモラルと共に組織活動のモラルについても熟考したいものです。

竹内宏子(26年)

ITCに入会してから、あっという間に27年が過ぎました。この間に多くの方との出会いがありました。大変だったことも過ぎてしまえば、楽しいことだけが思い出されます。今一番懐かしいことは、昨年、日本で行われた世界大会に参加したことです。

村瀬美與子(25年)

ITCは、知的お遊びの会と言う人もありますが、それはそうかもしれません。しかし家庭の主婦は日常性の中に埋没して、何となく暮らして行くものです。「我思う、故に我あり」とは有名なデカルトの言葉です。あらゆるものを疑う事は出来るが、その疑っている我のある事だけは疑うことが出来ない。立ち止まって自己の存在をみつめる、そういう機会をITCは私に与えてくれています。

伊藤匡子 (22年)

50周年を迎えるにあたって、私は名古屋クラブに入会し、少し緊張が取れた頃、30周年を祝ったことを鮮明に思い出します。今は亡き、白木保子さん、八代ふゆ子さんの優美な中に毅然としたお姿と共に、入会歴の浅い私に、根気よく親切に多くのことを教えていただいたこと、50周年を待たずご逝去された増田先生には、このように年を重ねられたらとあこがれてましたことなど、深い感謝の気持ちを持って思い出しています。

高阪公子 (18年)

豊田ビルの会議室で、ウェイティングリストの一員として参加していた頃、「リジョン」「ジェネラルイバリュエーター」と耳慣れないむずかしい言葉に、疲れきって家路についたこと……。今でもあの緊張がとけたあとの疲労感が、懐かしく心地良い感覚として思い出されます。皆様方に、ご迷惑をかけながら今日までついて来られた幸せを感謝しております。

浦野美里 (15年)

入会4ヵ月のスピーチコンテスト。国会図書館迄出向き、本を読み漁って準備し、おどおどして演台に立ったあの瞬間。緊張を察して差し出して頂いた一杯のお水に喉も潤い、気も鎮まりました。練習の成果を充分発揮することはできませんでしたが、今はない充足感を覚えています。

村上令子 (14年)

50年と言う節目に当たって、これからの展望を考えてみますと長い年月を経て蓄積された良き伝統を継承しながらも一つの方向に傾かないで新しい気風も取り入れていく姿勢が求められます。大切な要素はその時々良きものを導入してクラブの発展に繋げる努力が必要です。「変化は人々の心の知性のための戦いである。その戦いは決して終わることがない」と言われています。

西村みつ子 (14年)

50年前の幼稚園児の私と今の私、その変貌を実感する時、50周年というのは凄いことだとしみじみ思います。会員になって13年。忙しさをぼやきながらも様々な刺激が快く、素晴らしい先輩・友人に恵まれ、揉まれることを楽しみながらの生涯学習です。世界大会のお手伝いも良き思い出になりました。

神谷啓子 (11年)

入会して早くも12年目になりました。今まで仕事と並行してITC例会に臨んでいて、余り真剣に取り組んでいませんでした。1年前会長就任を機に、今までの考え方では会長の役は勤まらないことが分かり、私なりに勉強し、やっとITCの事が分かってきました。仕事を離れた開放感と、それとは違った緊張感を快く感じられるようになったのは12年も経ってからです。

森 露 子 (11年)

1999年7月5日をもって50周年を迎えます名古屋クラブはhomo sapiens(理性人)とhomo ludus(遊ぶ人)の両面性を持った素晴らしい人の集まりです。実りの秋、会員の方から银杏を頂くのが恒例となりました。そのお宅の天にそそり立つ老樹巨木の優しい姿が強く心に残ります。どんなに時代が変わっても美しい歴史の証人である银杏に学びたいと思います。

野 口 千 恵 子 (10年)

50周年を迎え、あらためて入会後の自分を振り返ってみた。プログラムに、目を白黒させながら取り組んだこと。何をやるにしても、いつわらざる自分しか出ないと痛感させられたことなど……。過ぎ行く日々と、来る日々を想う時、現在それなりに充実したひと時、そしていろいろを与えられていることを嬉しく想う今日この頃である。

荒 木 富 美 子 (7年)

好奇心旺盛な私は、一時の緊張感と共に発表する喜びを味わい恥の上塗りを重ねて7年。各種マニュアルと慣習を学びつつ、大きな抱擁力と知性を合せ持つ諸先輩をお手本としてきた私。豊かな感性と共にいつまでも持ち続けたい思考力。パーソナルコンテスト時代に入りつつある今日にあって、私なりの美しき人生を創り続けていきたい。

関 谷 初 子 (7年)

①ま、学ぶことの①あわせをつく②く感じております。共に歩む温かな日々も、はや7年にならんとしております。遙かな時の流れに刻まれた②にしを大切にしてい、今期のクラブテーマ“礎”によせて50周年を迎えます名古屋クラブに喜びを新たにいたしております。

蛭 川 光 美 (7年)

幅広い知識と能力を身につけるために常に努力されている先輩方の姿勢に反省させられることしきりです。日本では名古屋クラブから創められたITCが全国に広がり、21世紀へ向かって、多くの人に受け継がれて、続けられていくように願っています、その中の一人であることを幸せに思っています。

木 村 洋 子 (4年)

入会后わずか4年半。平穏で活気のあった家庭生活が激変しました。子供の独立、老母との同居、そして昨年、病を得た夫が自宅療養の身となりました。名古屋クラブは私にとりまして「心を磨く道場」です。同時に「心の癒しの場」ともな

りました。経験は浅くとも、感謝と慶びの心は深いものがございます。

豊田 江見子 (3年)

名古屋クラブの例会は、正しい話し方、会合の持ち方を教えて頂きながら実践し、大人の女性の生き方を身につける大切な時間とっております。持ち出し例会の遠足、会員のお宅での送別会、季節と共に変化に富んだ会合は次に何が起こるのでしょうか。とても楽しみでございます。

土居 陽子 (3年)

普段いつも使っている言葉。その一言によって、人の感情が左右されることがある。使い方一つで、人を喜ばせ、癒し、また力づけたり・・・そして、一方で、心ならずも人を怒らせ、傷つけ、かなしませたりする。それは、まるで魔法の杖のよう。握り方一つでどうにでもなる。もっと慎重に、相手の気持ちを察し、言葉をえらんでいきたい。

小出 治美 (2年)

会員歴2年、短期決戦型の私に何事も長期スパンで考えていく事、人との出会いの大切さ、そして他人とのコミュニケーション以上に自分自身との戦いの難しさ等々多くを学ばせて頂いて居ります。これからはもっと知的好奇心を高め伝統あるクラブの中で自分のキャパシティを広めてゆけたらと思う今日この頃です。

加藤 玲子 (2年)

会員歴2年余りの私には「会員歴10年～数10年」という数字が「ITCは居心地がいい。魅力がある。」と語っているように思えます。継続の源は何なのか、「魅力」は何なのか、どこかに潜む宝を探すかのように、わくわくしながら会合に参加しています。新たな歴史と魅力を造っていかれる一員であることを励みに、ますます楽しんでいきたいと思えます。

松嶋 セツ子 (2年)

世界大会、名古屋クラブ50周年記念祝賀会に参加できましたことは、入会2年目の私にとって幸運なことでございます。一つの課題に取り組み、豊富な経験や知識で、品格ある発表をなされる皆様の姿を見るにつけ、私も少しでも近づけたらと願っております。いつも緊張はいたしますが、毎月の例会を心待ちにいたしております。



